

奈良先端科学技術大学院大学 四條畷市との連携事例

自治体の課題(ニーズ)

高齢者は独居による人との接触機会の減少などの生活環境の悪化による身体機能の低下や、コミュニケーション不足による孤独死などが社会問題となっている。

内閣府の高齢社会白書では、65 歳以上の独居高齢者の約 3 割が、会話機会が 2-3 日に 1 回以下であり、さらには 1 割の高齢者は一週間に 1 回程度のコミュニケーションに限られている調査結果が報告されており、これらは認知症や鬱の原因や、健康な日常生活を損なう要因となる。

このような背景から、高齢者の見守りと健康寿命の延伸のための日常生活行動の改善支援が課題となっている。



研究成果(シーズ)の還元



高齢者特有の新たな機器を利用することに対する心理的障壁(デジタルディバイド)によりそのまま使われなくなるようなことを避けるため、利用方法が不明な場合や疑問がある場合に相談ができる窓口(相談会)を定期的で開催すると同時に、自宅などでスマホの日常利用を習慣化するための日常的雑談対話基盤を併用することで、継続的利用を実現する。

大阪府四條畷市と連携し、規模を拡大しつつ、継続した取り組みを行い、自走化を目指している。

■ この連携に携わった研究者



先端科学技術研究科
インタラクティブメディア設計学研究室
澤邊 太志 准教授

(研究者からのメッセージ)

実証実験では、対面サポーターがスマホの疑問を解決してくれますが、同時にスマホ内のバーチャルロボットが、自分で悩みを解決する方法をテキストチャットを介して手助けしてくれます。バーチャルロボットとの対話を習慣化し、実験終了後も、高齢者が自分でスマホの悩みを解決できるスキルを身に着けることを目指します。

※ 研究者の経歴等は(URL:<http://imdl.naist.jp/people/taishi-sawabe/>)をご参照下さい。

奈良先端科学技術大学院大学 四條畷市との連携事例

■ 自治体(四條畷市)からの視点



近畿総通局

【デジタル技術を活用した地域課題解決に向けた取組について】

・ 取組の経緯・きっかけについて教えてください。

四條畷市では田原支所が中心となり、AI・IoTの技術を活用し地域の課題解消を進めるため、令和2年2月に奈良先端科学技術大学院大学(NAIST)をはじめ民間事業者などが参画したコンソーシアムを設立しています。

コンソーシアムの参画者とは本市の課題について日常的にやりとりをしていましたが、NAISTから対話アプリ「ぐうちゃん」を使用した高齢者の日常的なヘルスケアや見守りについて提案がありました。

アプリを使用するためには、まずは住民自身がスマホを使いこなせるようになってはいけないので、スマホ操作などの困りごとについて個別相談できるスマホ教室を始めたという経緯があります。



四條畷市

・ 現時点での成果・進捗状況を教えてください。

教室は、週1回の頻度で、市内の3箇所の会場にて開催しています。参加人数は会場ごとで異なりますが、毎回5～10名の方に参加いただき、常連も増えているところです。

開催に当たっては、講師が参加者に向けて一括で教えるといった座学形式とはせず、個人が聞きたいことを自由に相談できる形態としています。



四條畷市

奈良先端科学技術大学院大学 四條畷市との連携事例

- 取組の期間・費用を教えてください。

本取組は令和3年からスタートしています。
また、実施費用についてはNAISTが負担しており、本市としては特段の費用は発生しておらず、現時点ではスマホ教室の開催場所を提供するに止まっています。



四條畷市

- 活用した国の支援策はありますか。

携帯キャリアが実施している総務省「デジタル活用支援講座」を活用したスマホ教室とは別の取組であり、本取組においては特段の補助金は活用していません。



四條畷市

奈良先端科学技術大学院大学 四條畷市との連携事例



近畿総通局

【大学との連携について】

- ・ 大学と連携した経緯・きっかけについて教えてください。

田原支所としては本取組で初めてNAISTと連携をしましたが、コンソーシアム設立に当たってNAISTに構成員として加わってもらったのは、端的に言えば田原支所と地理的に近接しているけいはんな学園都市に所在していたためです。

NAISTと本市は包括連携協定を締結しておらず、大学とつながりのある本市の特別参与として従事する職員が中心となり連携に至りました。

このように本市では人の繋がりで連携に至ったという側面が強いのですが、関西官学連携推進ポータルにおいては、大学の地域連携窓口が一元的に掲載されており、大学連携を模索しているが大学と接点のない自治体にとっては、十分に活用できる余地があると考えます。



四條畷市

- ・ 連携の効果を教えてください。

大学との連携の効果として、取組に対する第三者の理解が得られやすくなり、政策を前に進めやすくなるという利点があります。

また、スマホ教室に関していえば、講師は地域に馴染みのある大学の先生や学生が主体となって運営していることから、高齢者からは非常に話しやすいと好評です。



四條畷市

- ・ 連携に際して工夫した点や苦労した点がありますか。

本取組においては大学との意思疎通も円滑に行なわれており、現在のところ連携に際して苦労している点は特段ありません。



四條畷市

奈良先端科学技術大学院大学 四條畷市との連携事例



近畿総通局

【今後の展望について】

- 本事例について、今後の展望を教えてください。

スマホ教室の開催に当たっては、中長期的にはスマホの使い方をマスターした受講者が講師として受講者の相談に応じるなど、地域コミュニティの中でNAISTや本市に頼ることなく自走できる仕組みを作ることが理想形態です。

また、スマホ教室の受講により、広義の意味でのデジタル人材（住民）が一人でも多く育成されることや、本アプリを通じたヘルスケアや見守り事業の発展等にも繋げていきたいと考えています。



四條畷市

- 本事例のほかに、今後予定しているデジタル技術を活用した地域課題解決に向けた取組や、大学と連携をしてみたい取組があれば教えてください。

現在地域の交通網維持という観点から、自動運転に向けた取組を進めています。

本年度には、実装をスタートさせる予定ですが、実装に当たっては、安価で使いやすい予約システムがあれば導入したいと考えています。



四條畷市

連絡先

四條畷市 田原支所

TEL: 0743-78-0175

MAIL: tawara@city.shijonawate.lg.jp

【参考情報】 四條畷市人口: 5.4万人(令和6年2月現在)

関連URL: <https://www.city.shijonawate.lg.jp/>